

資料7

令和5年度

取扱注意

モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関するワークショップ  
(第1回)

令和5年12月21日(木)

北海道十勝総合振興局 帯広建設管理部

1. 事業経過..... P2
2. 令和4年度 第2回WS開催時 質問・意見について.....P7
3. 令和5年度 道路事業及び環境調査中間報告 .....P21
4. オンネット一地区道路環境保全会議について..... P54
5. 道路計画ルート検討について..... P59

## 1. 事業経過

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 1-1.事業経過 H26(2014)～R4(2022)

年	経緯
H26(2014).11.20	●平成26年9月の御嶽山噴火を受け、文部科学省地震火山部会において、 <u>雌阿寒岳</u> を含む9火山が重点的な観測・研究を行う火山に指定される。
H27(2015).5月	●「雌阿寒岳火山防災計画(平成27年度版)」が策定され、計画の中で当該路線が <u>噴火時の避難路</u> として位置づけられる。
H27(2015).7.28	●雌阿寒岳の火山性地震増加に伴い、噴火警戒レベルが1(平常)から2(火口周辺規制)に引上げられる。 ※H27.11.13に噴火警戒レベル1に引下げ
H27(2015).12.22	●環境省中央環境審議会自然環境部会自然公園等小委員会(第31回)において、阿寒国立公園事業の変更について答申がなされ、同公園区域内の <u>町道雌阿寒オンネット一線の有効幅員変更(3.5m→5.5m)</u> が認められる。 ●自然環境調査開始
H28(2016).3月	●町道雌阿寒オンネット一線が <u>道道に昇格</u> となり、道道モアショロ原野螺湾足寄停車場線の一部となる
H28(2016).6月	●第一回懇談会が開催される。
H29(2017).11月	●第一回ワークショップが開催される。
H30(2018).1月	●平成29年度公共事業(大規模等)事前評価地区に登録
H30(2018).6月	●「平成29年度政策評価(公共事業評価)」の評価結果「要望を行うことは妥当」
H30(2018).11月	●雌阿寒岳の火山性地震増加に伴い、噴火警戒レベルが1(平常)から2(火口周辺規制)に引上げられる。 ※H30.12.21に噴火警戒レベル1に引下げ
R4(2022).12月 防災情報報告	●令和4年10月気象庁の報告「噴火警戒レベル1、噴火の兆候は認められない」 ●雌阿寒岳火山防災協議会で5月に登山ルート <sup>1</sup> の安全確認や注意看板の設置を実施。

令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

1-1.事業経過 R5(2023)～

年	経緯
R5(2023).3月 防災情報報告	<ul style="list-style-type: none"><li>●雌阿寒岳の火山活動状況説明</li><li>●雌阿寒岳火山防災協議会:2月13日に勉強会(WEB開催)を実施。</li><li>●雌阿寒岳火山防災協議会:2月20日に雌阿寒岳火山減災行動ワーキンググループを開催。</li></ul>
R5(2023).12月 防災情報報告	<ul style="list-style-type: none"><li>●雌阿寒岳の火山活動状況説明</li><li>●雌阿寒岳火山防災協議会:5月31日現地調査を実施(登山ルート安全確認、注意看板設置)、10月24日総合防災訓練を実施(防災計画や噴火シナリオ検証を目的とした実地・図上訓練)</li></ul>

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 1-2. 自然環境調査及び懇談会・WS等開催経過：H27(2015)～R1(2019)

年度	内容	備考
H27 (2015)	自然環境調査	動植物調査、地表地質踏査、既存資料調査
H28 (2016)	第1回懇談会(6/17)	H29調査計画説明、現地視察
	自然環境調査(6月～2月)	哺乳類、爬虫類・両生類、昆虫類、魚介類、鳥類、景観
	第2回懇談会(3/17)	H28調査結果、H29調査計画説明
H29 (2017)	自然環境調査(5月～10月)	哺乳類、両生類、鳥類、植物(蘚苔類)、地質
	第1回懇談会(8/8)	H29調査結果、保全対策案説明、現地視察
	第1回WS(11/1)	H28、H29調査結果、保全対策案説明、現地視察
	第2回WS(3/30)	H29調査結果、道路設計説明、H30調査計画及び事業計画説明
H30 (2018)	自然環境調査(4月～9月)	鳥類、植物(地衣類を含む)
	WS現地視察(6/29)	植物方形区位置、ヒカリゴケ生育地、重要種移植検討対象種、外来種調査説明
	第1回WS(11/21)	H30調査結果、道路設計説明
	第2回WS(3/11)	H30調査結果・計画、前回WS質問意見等
R1 (2019)	WS現地視察(9/10)	外来植物生育状況確認
	第1回WS(11/29)	R1調査結果、道路設計、R2調査計画、前回WS質問意見等
	第2回WS(3/16※)	R2事業・調査計画説明、前回WS質問意見等 ※新型コロナウイルス対応で資料を送付。

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 1-2. 自然環境調査及び懇談会・WS等開催経過：R2(2020)～R5(2023)

年度	内容	備考
R2 (2020)	第1回WS(10/6)	R2調査結果(中間報告)、R2事業計画説明、前回WS質問意見等
	現地視察(11/5)	駆除対象外来種生育状況確認
	第2回WS(3/23)	R2調査結果・R3調査計画、R3事業計画
R3 (2021)	外来種駆除試験(7/21、8/21、9/29)	アメリカオニアザミ駆除試験
	第1回WS(11/5)※現地見学会を兼ねる	R3調査結果(中間報告)、R3事業計画説明、前回WS質問意見等 現地見学会：アメリカオニアザミ駆除試験地見学
	オンネトー地区道路環境保全会議準備会(第1回)(7/27)	設立趣旨説明、意見交換、現地見学 ※第2回準備会は1月に書面開催
	第2回WS(3/24)	R3調査結果・R4調査計画、R4事業計画
R4 (2022)	オンネトー地区道路環境保全会議(第1回)(6/14)	規約確認、R4活動計画、オオハンゴンソウ駆除、国立公園内道路法面見学
	WS現地視察(9/29)	オオハンゴンソウ駆除試験地、在来種播種試験地、溶岩地区、国立公園内道路法面視察
	第1回WS(12/1)	R4調査結果(中間報告)、R4事業経過説明、前回WS質問意見等
	オンネトー地区道路環境保全会議(第2回)(2/9)	活動経過、特別講演、活動計画
R5 (2023)	オンネトー地区道路環境保全会議(第1回)(5/25)	R5活動経過、活動計画、オオハンゴンソウ駆除
	WS&保全会議 現地視察(10/18)	オオハンゴンソウ駆除試験地、螺湾川合流箇所、在来種播種試験地、現地学習会

## 2. 令和4年度 第2回WS開催時 質問・意見について



# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 2.令和4年度 第2回WS開催時 質問・意見への対応等について

	質問・意見	対応等	P
1	雌阿寒岳火山防災協議会の活動内容について	足寄町等HPからダウンロード可	P9
2	噴火レベル2になった場合の車両規制について	噴火時の通行規制等については、防災担当機関（足寄町等）と今後協議を行っていく。	P10
3	オンネトー道路への大型バスの乗り入れ規制の対応について	対応機関について情報提供（建設管理部、警察）	P11
4	蘚苔類や風穴のような環境を含む全体の生態系保全について	ひがし大雪自然館の乙幡学芸員から聞き取り（2023年11月14日）。全体の生態系保全については、5の道路計画ルート検討にて説明。	P12
5	国立公園第二種特別区域内の現道使用について ※CPの数の違いを含む	現道使用について再検討した結果、改変面積、希少植物消失箇所数ともに現道使用の場合が計画路線よりも多くなるため、現道使用は行わない。	P13
6	国立公園指定種及び国、北海道のレッドリスト対象種の情報について	全確認種リストに国立公園指定種、国及び北海道のレッドリスト対象種を記載した植物リスト別紙参照。	-
7	クサヨシの導入について	本道路計画では可能な限り在来種での緑化を目指していることから、種子が外来由来の可能性はあるが、在来種であるクサヨシの導入を検討している。	P18
8	総工費について	平成29年度における全体事業費は15億円	-
9	歩行性昆虫や両生類の生息地分断について	歩行性動物の分断対策として、横断管を500m以内に1箇所（全区間で9箇所）設置する計画である。※平成30年度第1回WSで柳川構成員にも確認済	P19
10	蘚苔類の移植について	道内での移植実績は少ない。移植対象種を移植しようとしても、同様な環境が必要であり、同様な環境には既に蘚苔類が飽和状態と考えられる。	P20

## 2-1 雌阿寒岳火山防災協議会の活動内容について

- ・活動内容については公開はしていません、問い合わせただければお答えします。
- ・雌阿寒岳火山防災協議会の計画等については、足寄町のホームページからダウンロードできます。  
[https://www.town.ashoro.hokkaido.jp/kurashi/bousai/meakandake/meakan\\_bousaik.html](https://www.town.ashoro.hokkaido.jp/kurashi/bousai/meakandake/meakan_bousaik.html)
- ・気象庁のページで、雌阿寒岳火山防災協議会の主な動きとしてご覧いただけます。  
[https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/sapporo/105\\_Meakan/105\\_bousai.html](https://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/sapporo/105_Meakan/105_bousai.html)

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 2-2 噴火レベル2になった場合の車両規制について

### 建設管理部

(防災対応マニュアル(令和5年6月改訂版) 帯広建設管理部維持管理課)

#### ・レベル2になった場合は通行規制を検討する

北海道による第1非常配備として、パトロールを行い異常があれば規制を行う

- ・監視機器による監視、情報収集
- ・道路情報板による情報提供
- ・避難路の確保(冬季通行止め区間の積雪10cmごとの除雪等)

#### ・レベル3になった場合

北海道による第2非常配備として、

- ・町等と連携し状況に対応した通行規制(進入規制)

### 足寄町

(足寄町地域防災計画)

#### ・レベル2になった場合は

登山道(雌阿寒温泉・オンネトー)7合目以上の立ち入り規制

#### ・レベル3になった場合は

入山規制、避難など

## 2-3 オンネトー道路への大型バスの乗り入れ規制の対応について

・ オンネトー線における大型車両の通行規制について、当該箇所は他と変わらない一般的な道道であり、特に狭小な道路では無いため、大型バスの通行規制は行わない。

[帯広建設管理部維持管理課]

・ 当該路線は特に狭い道路でも無く、観光道路としての位置づけもあり、観光バスも多く使用していることから、通行規制を行う予定は無い。

[本別警察署交通課]

## 2-4 蘚苔類や風穴のような環境を含む全体の生態系保全について

・蘚苔類の希少な種類について、乙幡学芸員のコメントは平成30年(2018年)の聞き取りであり最近のものではないため、改めて確かめられたい ⇒ 2018年7月8日聞き取り



・蘚苔類相は数年程度で変化するものではなく、平成29年(2017年)の調査で現況を把握できているため、再調査の必要性はないものとする。⇒ 2023年11月14日聞き取り

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## (1) 2-5 国立公園第二種特別区域内の現道利用(計画ルート)について

・第1回WSで示された計画ルート案は第1案から第5案まであり、現在の計画ルートは第5案となっているが、第4案を採用しない理由は何か？(螺湾川への影響を避けるということか？)

・平成28年度第1回懇談会で提示した内容

### 第1回 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する懇談会 3-1

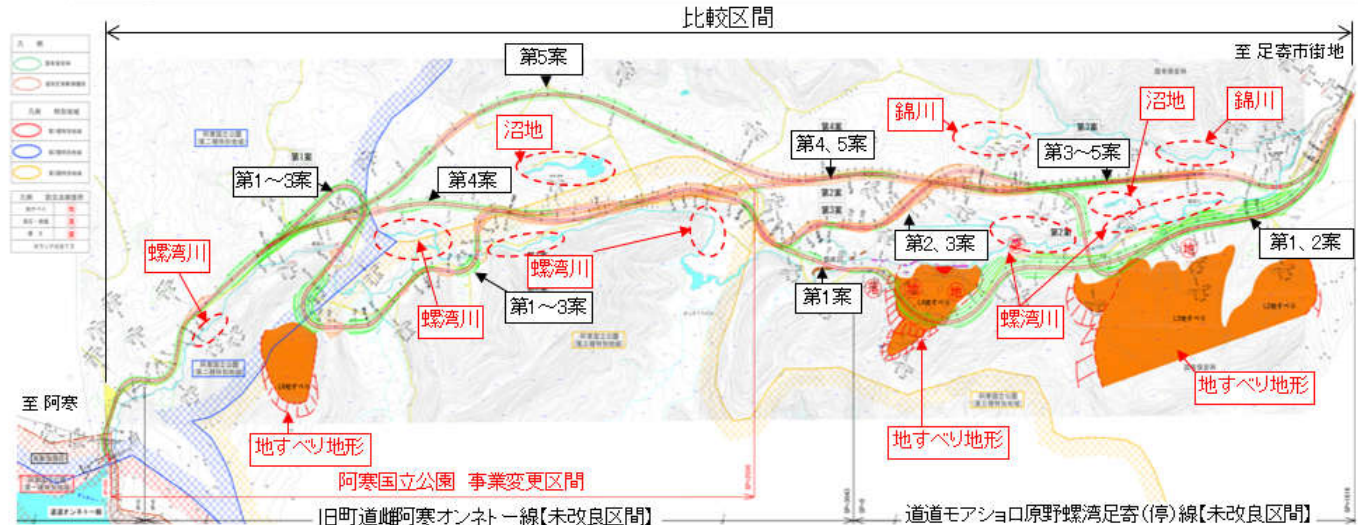
#### 3. 平成27年度調査結果の概要

##### (1) 望ましい通過位置の選定

・1/2500精度の空測平面図と文献資料等による情報(コントロールポイント)から、当該地域に望ましい通過位置を検討。  
※CP:コントロールポイント

CP

- ①通過を極力さける又は通過を最小とする(地すべり地形、沼地、河川、国立公園地域等)
- ②大規模な切土・盛土を避ける
- ③極力大きな平面曲線半径、緩やかな縦断勾配を採用する



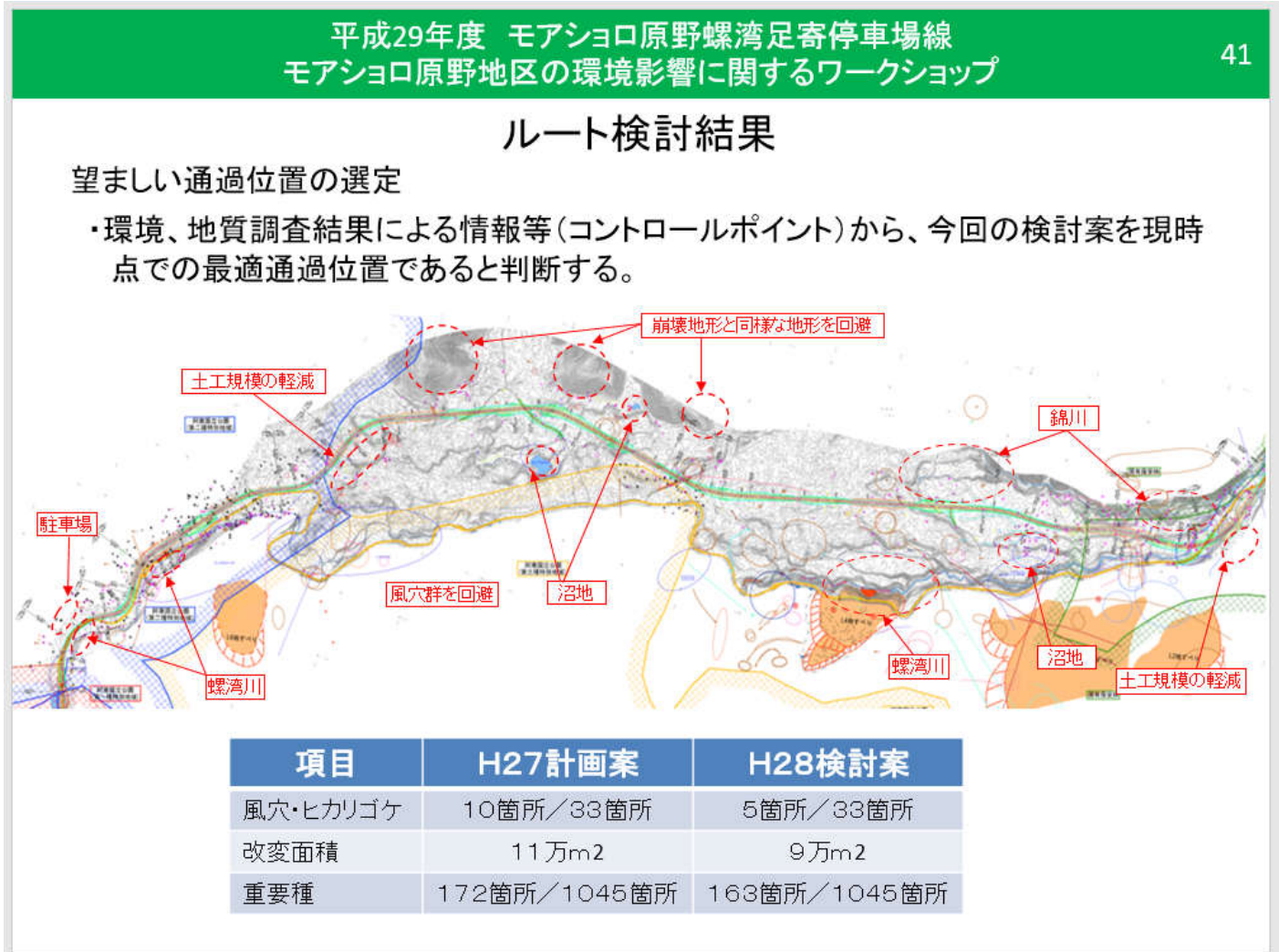
・設定したCPに対して、最も多く満足する通過位置として、「第5案」を採用。

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## (1) 2-5 国立公園第二種特別区域内の現道利用(計画ルート)について

・第1回WSで示された計画ルート案は第1案から第5案まであり、現在の計画ルートは第5案となっているが、第4案を採用しない理由は何か？(螺湾川への影響を避けるということか？)

・平成29年度第1回ワークショップで提示した内容



# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## (1) 2-5 国立公園第二種特別区域内の現道利用(計画ルート)について

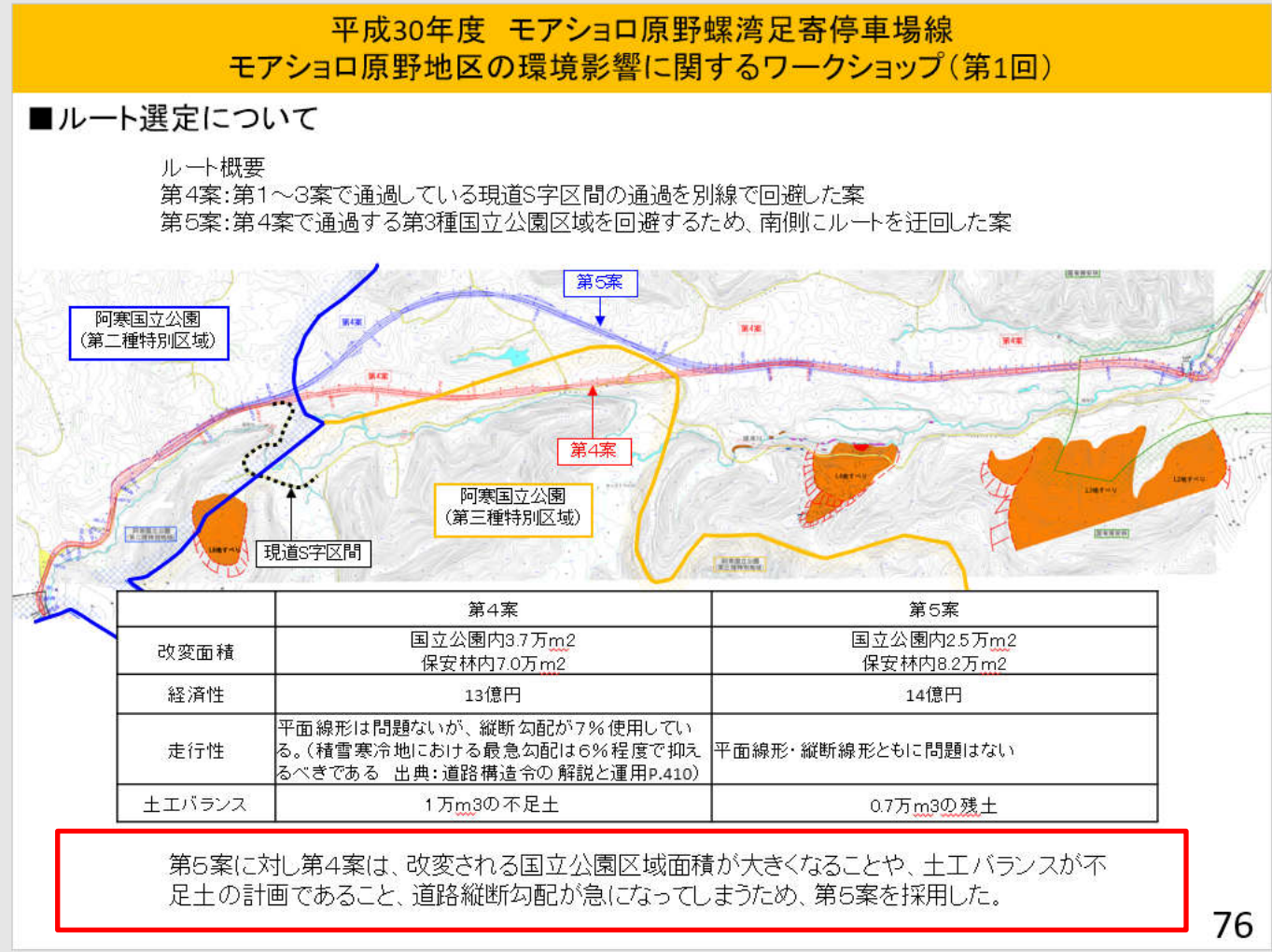
・第1回WSで示された計画ルート案は第1案から第5案まであり、現在の計画ルートは第5案となっているが、第4案を採用しない理由は何か？(螺湾川への影響を避けるということか？)

平成30年度第1回ワークショップで提示した内容

・国立公園区域の改変面積が大きくなる。

・道路縦断勾配が急になる。

・土工バランスが不足土となる。





# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## (2) 2-5 国立公園第二種特別区域内の現道利用(計画ルート)について

当初のルート検討時のCPは、「風穴植生の通過を避ける、または最小とする」、「大規模な切土、盛土を避ける」、「極力大きな平面曲線半径、おだやかな縦断勾配を採用する」この3つとなっていたが、今回の資料では6つとなっているのはなぜか？

※現道を使えば、幅広い開削を行うこともなく、蘚苔類の林床植生によるアカエゾマツの部分が非常に多い樹林帯を大事にできる



当初計画ではCPは3つであったが、線形見直し時にCPを6つとしたたことをH29第1WS(11/1)資料で説明。

平成29年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関するワークショップ 38

### 通過位置の検討

道路設計におけるコントロールポイントの設定  
・整理した留意事項をもとに、道路予備設計レベルのコントロールポイントを設定した。

CP	<ul style="list-style-type: none"><li>①大規模な切土・盛土を避けるとともに、<b>工区内土工バランス</b>を考慮</li><li>②<b>風穴群を回避</b></li><li>③螺湾川や沼地への<b>影響を回避</b></li><li>④崩壊地形の地質と同じ斜面から極力<b>離隔を確保</b></li><li>⑤林道、現道、駐車場等の<b>機能補償に配慮</b>するとともに、極力支障を回避</li><li>⑥重要種(動物・植物)の確認範囲を<b>極力回避</b></li></ul>
----	---

至阿寒 至足寄市街地

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## (2) 2-5 国立公園第二種特別区域内の現道利用(計画ルート)について

当初のルート検討時のCPは、「風穴植生の通過を避ける、または最小とする」、「大規模な切土、盛土を避ける」、「極力大きな平面曲線半径、おだやかな縦断勾配を採用する」この3つとなっていたが、今回の資料では6つとなっているのはなぜか？

※現道を使えば、幅広い開削を行うこともなく、蘚苔類の林床植生によるアカエゾマツの部分が非常に多い樹林帯を大事にできる

### H27調査結果をH28第1回懇談会(H28/6/17)で発表

#### 当初CP

- ①通過を極力さける又は通過を最小とする  
(地すべり地形、沼地、河川、国立公園等)
- ②大規模な切土・盛土を避ける
- ③極力大きな平面曲線半径、緩やかな縦断勾配を採用する

### H28調査結果をH28第2回懇談会(H29/3/17)で発表

#### 見直後 CP

- ①大規模な切土・盛土を避けるとともに、**工区内土工バランス**を考慮
- ②**風穴群を回避**
- ③螺湾川や沼地への**影響を回避**
- ④崩壊地形の地質と同じ斜面から極力**離隔を確保**
- ⑤林道、現道、駐車場等の**機能補償に配慮**するとともに、極力支障を回避
- ⑥重要種(動物・植物)の確認範囲を**極力回避**

- ・測量調査(図面1/2500から1/1000へ)→大規模な切り盛り土、螺湾川の影響確認
- ・環境調査→風穴群確認
- ・地質調査→崩壊箇所確認

## 2-7 クサヨシの導入について

クサヨシは日本在来種であるが、牧草として導入されたリードカナリーグラス(標準和名:クサヨシ)が広がっていることから、種類としては在来種だが、現在生育している株の種子は外国由来の可能性がある。

一方、通常の道路法面や河川の堤防法面には外来種であるケンタッキーブルーグラス(標準和名:ナガハグサ)やクリーピングレッドフェスク(オオウシノケグサ)が使用されている。

本道路計画では可能な限り在来種での緑化を目指している。R2の発芽調査やR3の賦存量調査などにより、十分な在来種子の確保や侵略的外来種の侵入抑制効果を期待できる植物として、種子は外来由来の可能性はあるが、明らかな外来種ではないクサヨシの導入を検討している。



# 令和5年度 モアショロ原野螺灣足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 2-9 歩行性昆虫や両生類の生息地分断について

歩行性動物の分断対策として、横断管を500m以内に1箇所（全区間で9箇所）  
設置する計画である。 ※平成30年度第1回WSで確認済

平成30年度 モアショロ原野螺灣足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関するワークショップ(第1回)

■横断管の形状について  
本線に設置する横断管は小動物等の移動ルートを確認する横断管(以下、移動配慮型横断管と略す)を設置する。  
設置する横断管は以下を想定している。

	第1案 段付き横断管	第2案 丸太設置横断管
イメージ図		
概要	横断管内に足場を設置した案。(常時流水より上部)段の上を小動物が移動する。(管径はφ900を想定※)	横断管内に丸太を設置した案。(常時流水より上部)丸太上を小動物が移動する。(管径はφ900を想定※)
メリット	・コンクリート構造物であるため、耐久性に優れる ・維持管理性に優れる	・横断管に丸太を設置するための経済性に優れる
デメリット	・横断管の中にコンクリート構造物を設置するため経済性に劣る	・丸太はコンクリート構造物に対して耐久性に劣る ・丸太は腐食等の劣化速度が速いため維持管理性に劣る

検討した結果、丸太は経済性に優れるものの、劣化速度が速く維持管理性に劣るため第1案を採用することを想定している。  
※1 豊島バイパスで採用されている移動配慮型横断管がφ900であり、小動物の利用が確認された実績を考慮し、φ900とする

小動物の内、特にテンヤリスは水を嫌うため、段や丸太は常時流水より上方に設置する。  
※実際に段付き横断管を利用している写真を右に示す。  
出典：国土技術政策総合研究所資料「野生動物に対する道路横断施設の設置と事後調査に関する技術資料」P.20より一部抜粋

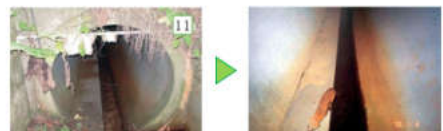


図1 利用状況 クロテン

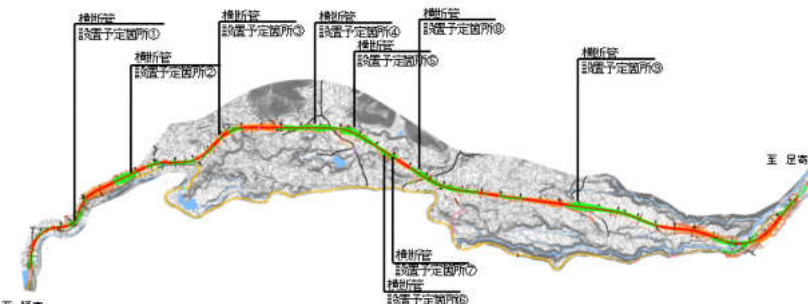
48

平成30年度 モアショロ原野螺灣足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関するワークショップ(第1回)

■横断管の設置位置について  
以下に横断管の設置方針を示す。

設置方針① 横断管は沢地形状等の融雪期に水が流れてくると想定される箇所に設置  
設置方針② 移動配慮型横断管は、テンヤリス等の水を嫌う小動物の移動経路から500m以内の範囲※1に設置  
設置方針③ 小動物は橋梁の下を移動するため、橋梁部付近には横断管は設けない

※1 エコロードブックによると、小動物用の通路は「最大400m～500mの間隔で定期的設置すべきである」と記載されている。小動物は400～500mの範囲内であれば移動する事を想定し、本路線の横断管の設置位置は痕跡発見箇所から500m以内に設置することとした。出典：「エコロードブック-生き物と共生する道路づくり海外事例集-」P.74-75より



49

## 2-10 蘚苔類の移植について

### 蘚苔類の移植について（乙幡学芸員コメント）

道内での移植実績は少ない。移植対象種を移植しようとしても、同様な環境が必要であり、同様な環境には既に蘚苔類が飽和状態と考えられる。

### 蘚苔類の移植事例

	科名	和名	移植方法	事例箇所	
蘚苔類	ハイヒモゴケ	ミズスギモドキ	移植の実験、基盤となる岩の移植	山鳥坂ダム	四国 愛媛県
	クサキリゴケ	カビゴケ	移植の実験、基盤となる樹木の移植	山鳥坂ダム	四国 愛媛県
	ミズゴケ	オオミズゴケ	株を土壌ごと掘取り移植	鳥海ダム	東北 秋田県
			湿原再生、栽培・増殖	五ヶ山ダム	九州 福岡県
	ヤナギゴケ	ササオカゴケ	株を土壌ごと掘取り移植	鳥海ダム	東北 秋田県
	カワゴケ	クロカワゴケ	着生礫や流木ごと移植or剥離させ移植先の基盤へ着生	鳥海ダム	東北 秋田県
		コシノヤバナゴケ	着生枝ごと移植or剥離させ移植先の基盤へ着生	鳥海ダム	東北 秋田県

### 3. 令和5年度 道路事業及び環境調査中間報告

3-1.道路事業中間報告

3-2.環境調査(植物)中間報告

3-3.環境調査(鳥類)中間報告

## 3-1. 道路事業中間報告

## ＜令和5年度道路事業中間報告＞

### 【用地買収(民地の一部)】

令和5年 継続交渉中



## 3-2.令和5年度 環境調査(植物)中間報告

## 令和5年度 植物調査内容

### 関連する過年度の植物調査

#### R3年度

- ・在来種導入候補種の賦存量調査  
→導入候補種5種<sup>※1</sup>を選定

※1<草本>クサヨシ、オオヨモギ、アキタブキ  
<木本>ホザキナナカマド、ホザキシモツケ

#### R4年度

- ・在来種の現地播種調査(R3選定の導入候補種のうち草本3種)  
→コドラート全体を覆う植生回復なし  
→導入候補種に2種<sup>※2</sup>を追加

※2<草本>トモエソウ、ハンゴンソウ

- ・R5年度以降実施の4パターンの緑化試験の検討

A: 在来種種子  
の吹付(現地)

B: 在来種種子  
の吹付(管内)

C: 外来種種子  
の吹付

D: 外来種張芝

### 今年度の植物調査

現地調査完了

1. 種子採取(R6年度緑化試験に向けて)

2. 緑化試験(外来種種子の吹付、外来種張芝)

## 1. 種子採取

- ・導入候補種7種(R6年度緑化試験の在来種種子の吹付に使用)

<草本>



クサヨシ



オオヨモギ



アキタブキ

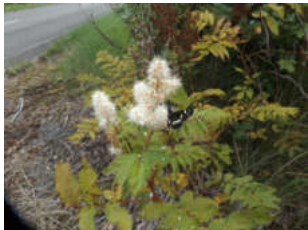


トモエソウ



ハンゴンソウ

<木本>



ホザキナナカマド



ホザキシモツケ

※写真は過年度報告書より引用

### ①種子採取箇所選定(6~7月)

- ・現地と管内の道路敷地または許可取得済み私有地で、導入候補種の種子採取箇所を選定

### ②種子採取・調整(7月、9~11月)

- ・導入候補種の種子を採取 ※アキタブキは種子寿命が短いためR6年度春に採取
- ・混入する不純物除去等の調整、低温・乾燥条件下で保存

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

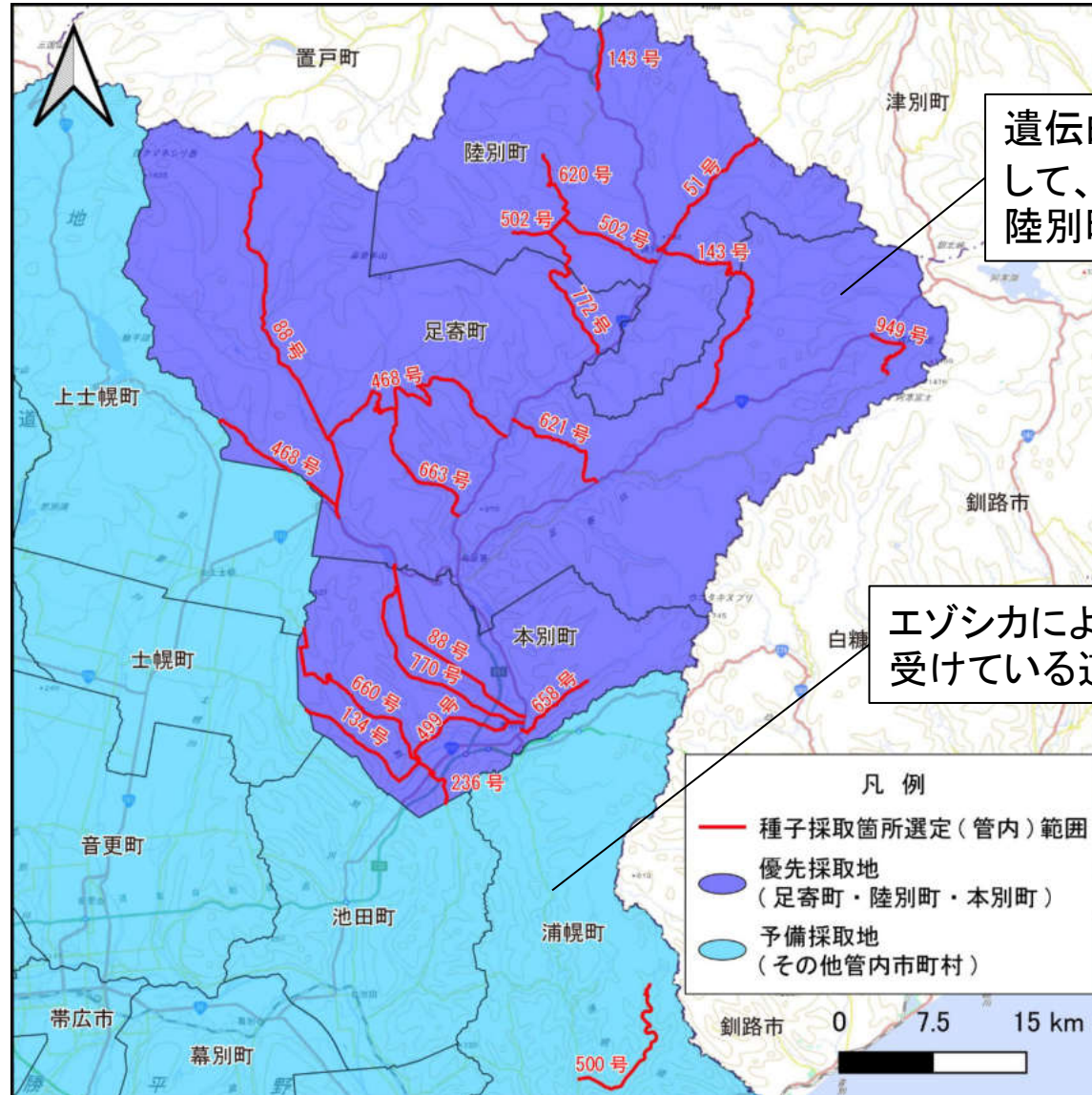
## ①種子採取箇所選定【地点】



# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## ①種子採取箇所選定【地点】

管内



# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## ①種子採取箇所選定【結果】

現地:すべての導入候補種で種子採取箇所を選定

管内:トモエソウを除く導入候補種で種子採取箇所を選定

※トモエソウは1個体のみの確認で、群落は確認されなかった

和名	必要面積 (m <sup>2</sup> )	現地		管内	
		種子採取箇所 選定面積(m <sup>2</sup> )	確認 結果	種子採取箇所 選定面積(m <sup>2</sup> )	確認 結果
クサヨシ	2.7	315	○	258	○
オオヨモギ	52.6	258	○	368	○
アキタブキ	6.5	110	○	54	○
トモエソウ	1.6	400	○	0	×
ハンゴンソウ	10.8	250	○	126	○
ホザキナナカマド	0.4	65	○	97.5	○
ホザキシモツケ	0.3	43	○	116	○

※必要面積は、導入候補種の各種単体で25㎡に播種できる量の種子を採取できる面積とした。

令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

②種子採取・調整【結果】

現地:すべての導入候補種で必要重量以上の種子を採取

管内:トモエソウを除く導入候補種で必要重量以上の種子を採取

※トモエソウは種子採取を行えなかったため、緑化試験時にハンゴンソウの必要重量を2倍にして補完

和名		採取箇所	採取日	必要重量(g)	採取重量(g)	採取結果
クサヨシ	現地	道道664号	7月7日、14日	40.19	95.62	○
	管内	道道143号、621号	7月7日	40.19	57.52	○
オオヨモギ	現地	道道664号	10月18日、11月1日	31.55	41.91	○
	管内	道道143号、621号	10月18日、11月1日	31.55	43.96	○
トモエソウ	現地	既伐採地	10月11日	5.65	33.35	○
	管内	—	—	5.65	0.00	×
ハンゴンソウ	現地	既伐採地	9月22日	25.95	58.84	○
	管内	道道143号	9月22日	51.90※	72.41	○
ホザキナナカマド	現地	道道664号	10月11日、18日	1.39	3.95	○
	管内	道道621号	10月11日	1.39	7.22	○
ホザキシモツケ	現地	道道664号	10月11日、18日	0.99	2.27	○
	管内	道道621号	10月11日	0.99	2.86	○

②種子採取・調整【結果】



クサヨシ



オオヨモギ



トモエソウ



ハンゴンソウ



ホザキナナカマド



ホザキシモツケ



令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 2. 緑化試験

### ・緑化試験パターン

試験パターン	在来種(R6年度実施)		外来種(R5年度実施)	
	A在来種種子の吹付(現地)	B在来種種子の吹付(管内)	C外来種種子の吹付	D外来種張芝
使用種	<導入候補種7種を混播> 草本:クサヨシ、オオヨモギ、アキタブキ、トモエソウ※、ハンゴンソウ 木本:ホザキナナカマド、ホザキシモツケ ※管内ではトモエソウが必要重量を確保できなかったため、ハンゴンソウの播種量を2倍にして補完		草本:ケンタッキーブルーグラス、クリーピングレッドフェスク、トールフェスク ※ 適用工法の種子配合による	草本:ハードフェスク、クリーピングレッドフェスク等 ※ 土工用栽培芝の種子配合による

### ・緑化試験スケジュール

試験パターン	本年度(R5)				次年度(R6)
	春	夏	秋	冬	春
A在来種種子の吹付(現地)	試験区整地	種子採取			種子採取・試験実施
B在来種種子の吹付(管内)	試験区整地	種子採取			種子採取・試験実施
C外来種種子の吹付	試験区整地・試験実施	判定(計3回)			
D外来種張芝	試験区整地・試験実施	判定(計3回)			

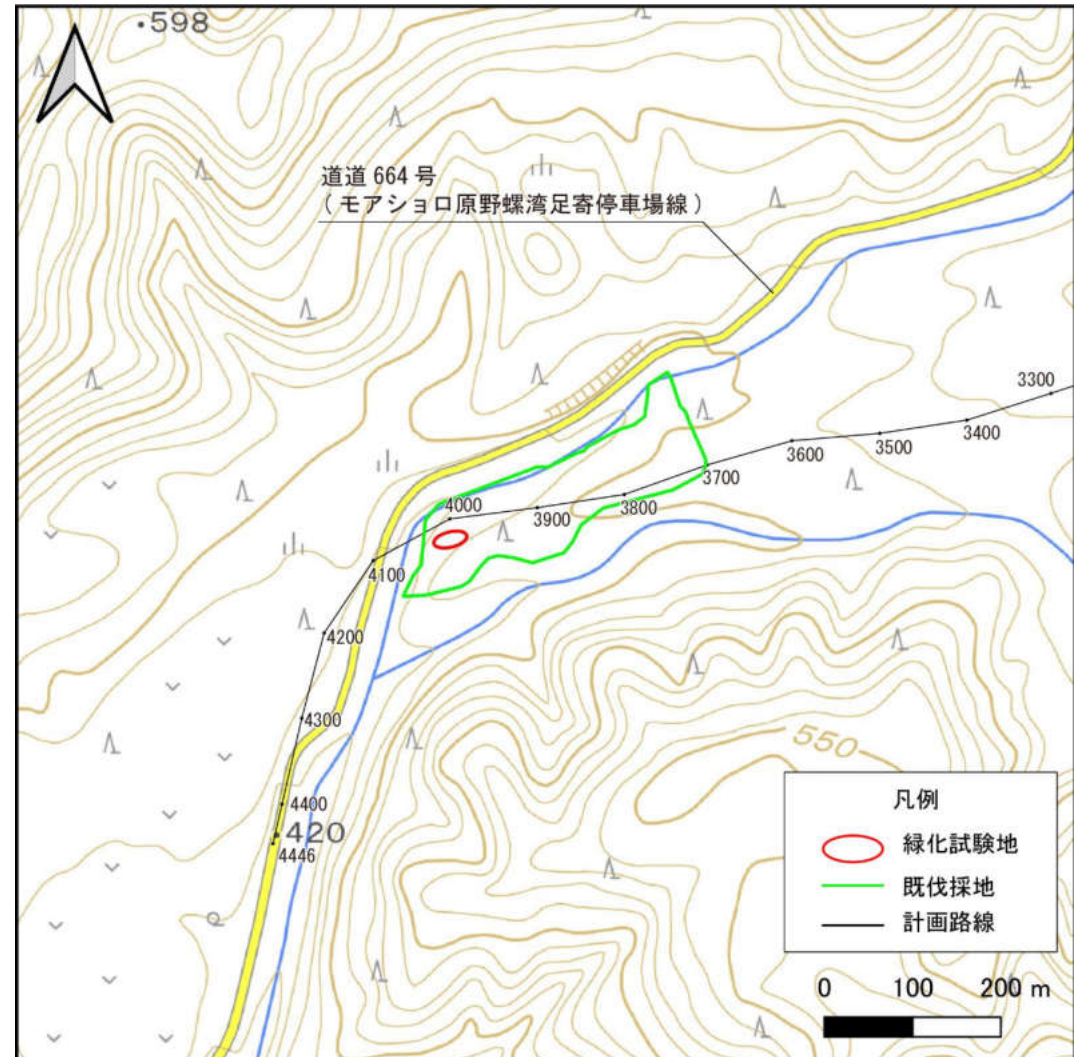
# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## ①緑化試験区整地 (5月)

- ・既伐採地内の斜面部で実施  
※道路法面の類似環境を想定
- ・鍬やレーキ等を用いて斜面の  
除草や抜根、除礫等を行い、  
緑化試験の基盤を整地
- ・各試験パターン1箇所25m<sup>2</sup>

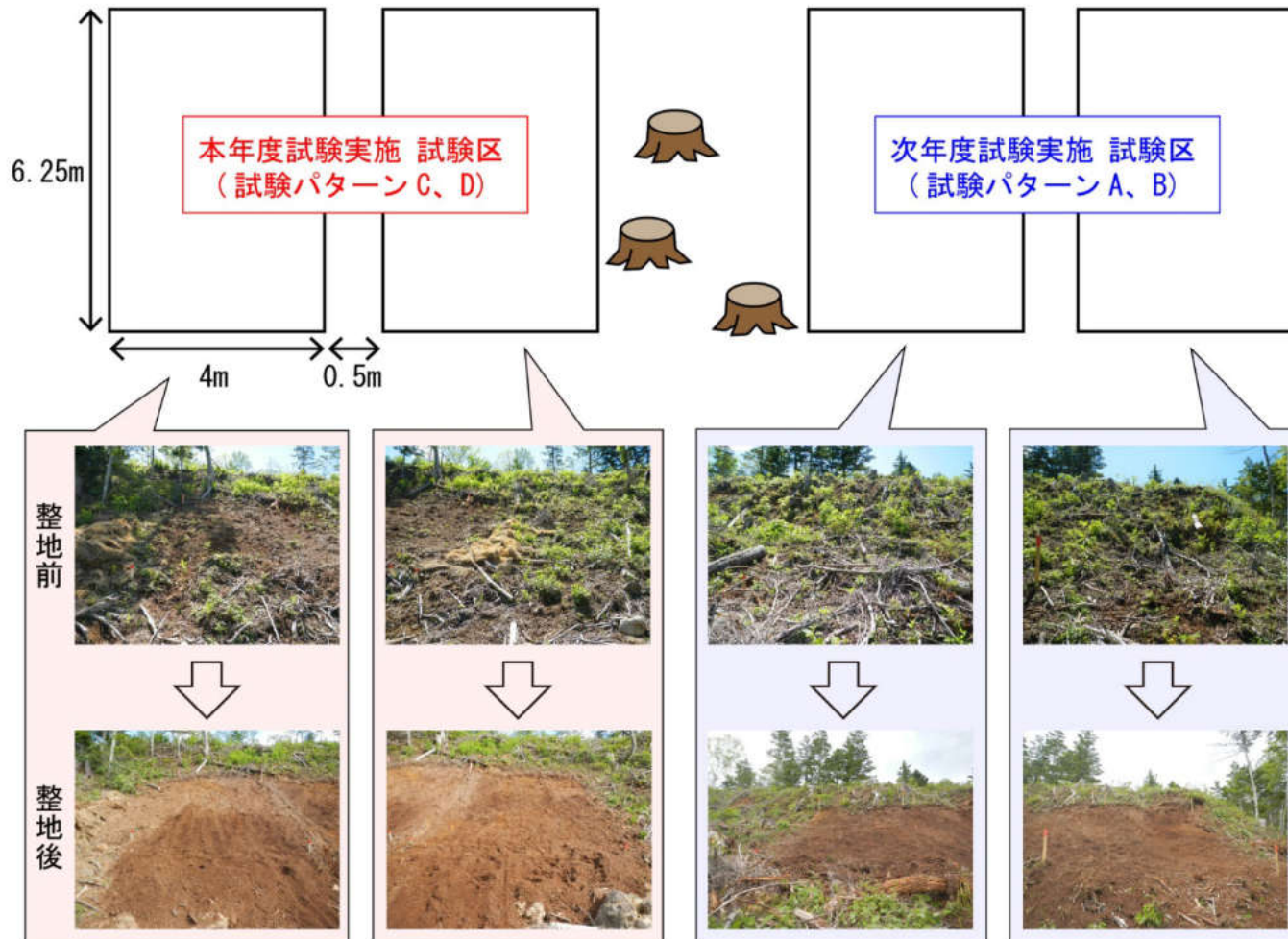


既伐採地の斜面部



## ①緑化試験区整地【結果】

- ・全ての緑化試験区で必要な面積(25m<sup>2</sup>)の整地を完了



# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## ②緑化試験実施（施工：6月）

### ・外来種種子の吹付※と外来種張芝を施工

※ 現地条件を確認し、「北海道建設部土木工事共通仕様書」の植生適応条件表等と照らし合わせて検討した結果、**腐植酸種子散布工**に決定

#### 外来種種子の吹付



車両搭載型の種子吹付機



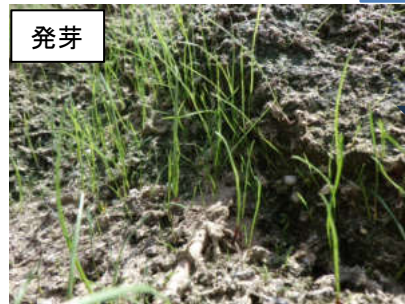
吹き付け



施工前



施工後



発芽

#### 外来種張芝



施工前



施工後



白根の発生



ロール芝



ロール芝の敷設

約10日後

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

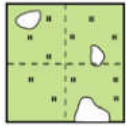
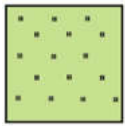
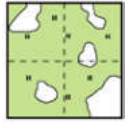
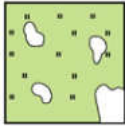
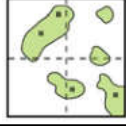
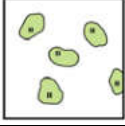
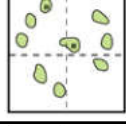
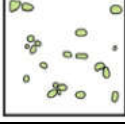
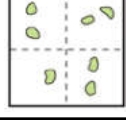
## ②緑化試験実施（判定：7月、8月、9月）

- ・群落組成調査で行い、**植被率**※、**群落高**、**確認種**、**被度**・**群度**などを記録

※試験区内を植物が覆っている割合（ $\text{植被面積} / \text{試験区面積} \times 100$ ）

- ・専門家の意見等を参考に**植被率40～50%以上**であることや、**外来種**を含めたほかの**植物種の侵入・生育状況**なども含めて総合的に判定

被度・群度の模式図







被 度			群 度		
被度5	被度がコドラート面積の3/4以上を占めているもの		群度5	調査区内にカーペット状に一面に生育しているもの	
被度4	被度がコドラート面積の1/2～3/4を占めているもの		群度4	大きなまだら状または、カーペット状のあちこちに穴が空いているような状態のもの	
被度3	被度がコドラート面積の1/4～1/2を占めているもの		群度3	小群のまだら状のもの	
被度2	個体数が極めて多いか、または少なくとも被度が1/10～1/4を占めているもの		群度2	小群をなしているもの	
被度1	個体数は多いが、被度が1/20以下、または被度が1/10以下で個体数が少ないもの		群度1	単独で生えているもの	
被度+	個体数も少なく、被度も少ないもの				

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## ②緑化試験実施【結果】

※1 試験区内を植物が覆っている割合

※2 確認種数に占める外来種数の割合、※3 アメリカオニアザミ

判定時期	外来種種子の吹付	外来種張芝																
1回目:7月 (約1ヶ月後)	 <table border="1"> <tr> <td>植被率※1</td> <td>全:65% イネ:55%</td> </tr> <tr> <td>確認種数</td> <td>22種</td> </tr> <tr> <td>外来種の割合※2</td> <td>27%</td> </tr> <tr> <td>オ二※3</td> <td>16個体</td> </tr> </table>	植被率※1	全:65% イネ:55%	確認種数	22種	外来種の割合※2	27%	オ二※3	16個体	 <table border="1"> <tr> <td>植被率</td> <td>全・イネ :98%</td> </tr> <tr> <td>確認種数</td> <td>8種</td> </tr> <tr> <td>外来種の割合</td> <td>63%</td> </tr> <tr> <td>オ二</td> <td>0個体</td> </tr> </table>	植被率	全・イネ :98%	確認種数	8種	外来種の割合	63%	オ二	0個体
植被率※1	全:65% イネ:55%																	
確認種数	22種																	
外来種の割合※2	27%																	
オ二※3	16個体																	
植被率	全・イネ :98%																	
確認種数	8種																	
外来種の割合	63%																	
オ二	0個体																	
2回目:8月 (約2ヶ月後)	 <table border="1"> <tr> <td>植被率</td> <td>全:80% イネ:60%</td> </tr> <tr> <td>確認種数</td> <td>19種</td> </tr> <tr> <td>外来種の割合</td> <td>32%</td> </tr> <tr> <td>オ二</td> <td>18個体</td> </tr> </table>	植被率	全:80% イネ:60%	確認種数	19種	外来種の割合	32%	オ二	18個体	 <table border="1"> <tr> <td>植被率</td> <td>全・イネ :98%</td> </tr> <tr> <td>確認種数</td> <td>9種</td> </tr> <tr> <td>外来種の割合</td> <td>56%</td> </tr> <tr> <td>オ二</td> <td>0個体</td> </tr> </table>	植被率	全・イネ :98%	確認種数	9種	外来種の割合	56%	オ二	0個体
植被率	全:80% イネ:60%																	
確認種数	19種																	
外来種の割合	32%																	
オ二	18個体																	
植被率	全・イネ :98%																	
確認種数	9種																	
外来種の割合	56%																	
オ二	0個体																	
3回目:9月 (約3ヶ月後)	 <table border="1"> <tr> <td>植被率</td> <td>全:85% イネ:70%</td> </tr> <tr> <td>確認種数</td> <td>18種</td> </tr> <tr> <td>外来種の割合</td> <td>22%</td> </tr> <tr> <td>オ二</td> <td>17個体</td> </tr> </table>	植被率	全:85% イネ:70%	確認種数	18種	外来種の割合	22%	オ二	17個体	 <table border="1"> <tr> <td>植被率</td> <td>全・イネ :98%</td> </tr> <tr> <td>確認種数</td> <td>9種</td> </tr> <tr> <td>外来種の割合</td> <td>56%</td> </tr> <tr> <td>オ二</td> <td>0個体</td> </tr> </table>	植被率	全・イネ :98%	確認種数	9種	外来種の割合	56%	オ二	0個体
植被率	全:85% イネ:70%																	
確認種数	18種																	
外来種の割合	22%																	
オ二	17個体																	
植被率	全・イネ :98%																	
確認種数	9種																	
外来種の割合	56%																	
オ二	0個体																	

## ②緑化試験実施【結果】

- ・いずれの試験区も植被率は判定の目安※<sup>1</sup>(40～50%)、品質の目安※<sup>2</sup>(80%)を上回った  
※<sup>1</sup> 専門家の意見等を参考、※<sup>2</sup>「北海道建設部土木工事共通仕様書」に記載
- ・いずれの試験区も施工に用いたイネ科が優占
- ・アメリカオニアザミは、外来種種子の吹付で16～18個体が侵入  
参考)次年度施工予定の整地箇所(裸地)でのアメリカオニアザミは53～83個体

### 〈外来種種子の吹付〉 確認種の一部



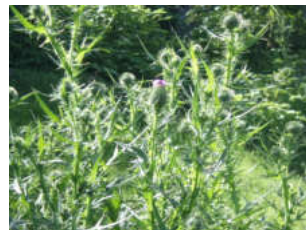
イネ科



エゾキイチゴ



イケマ

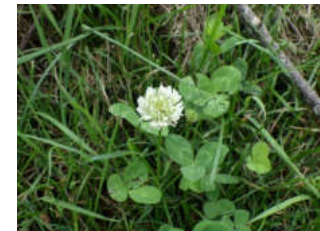


アメリカオニアザミ

### 〈外来種張芝〉 確認種の一部



イネ科



シロツメクサ



エゾイラクサ



ヒメスイバ

## ②緑化試験実施【結果】

- ・いずれの試験区も、エゾシカによる食害を確認
- ・外来種種子の吹付では、エゾシカによる踏み荒らしも確認



エゾシカの食害を受けたイケマ 2回目(8月)



エゾシカの食害を受けたイケマ 3回目(9月)



エゾシカによる踏み荒らし



センサーカメラに写るエゾシカの様子



### 3-3.令和5年度 環境調査(鳥類)中間報告

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 既往調査および令和5年度調査概要

表 調査経過(平成27年度～令和5年度)

対象 年/調査内容	鳥類相全般			重要種鳥類
	文献調査	聞き取り調査	スポットセンサス	終日定点・夜間・痕跡・営巣木調査
H27	既往文献	鳥類: 藤巻裕蔵氏他	-	-
H28	-	-	○	-
H29	-	-	○	-
H30	-	-	-	○
H31 (R1)	-	-	-	○
R2	-	-	○	○
R3	-	-	-	○
R4	-	-	-	○
R5	-	-	○	○

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

令和5年度調査結果一覧

調査方法	調査日	調査結果(R5のみ)		
		確認種数	新出現種	重要種
終日調査	4月25～27日 5月16～18日 6月14～16日 9月12～14日	29科66種	エゾセンニュウ チゴハヤブサ	エゾライチョウ, タンチョウ, ヤマシギ, オオジシギ, ミサゴ オジロワシ, ツミ, ハイタカ, オオタカ, クマタカ, オオアカゲ ラ, クマゲラ
スポット センサス	6月2・13日			
重要種鳥類生息状況調査	<u>次回以降報告予定</u>			

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 令和5年度全体調査結果

- 本調査によって確認された鳥類は11目29科66種であった。
- 重要種としてエゾライチョウ、タンチョウ、ヤマシギ、オオジシギ、ミサゴ、オジロワシ、ツミ、ハイタカ、オオタカ、クマタカ、オオアカゲラ、クマゲラの5目6科12種を確認した。
- 本年度新規確認種はチゴハヤブサ、エゾセンニュウの計2種であった。

表 鳥類調査による確認種(1/3)

No.	目名	科名	種名	学名	新規 確認種	重要種				渡りの型	生息環境
						文化財	種の 保存法	環境省 RL	北海道 RL		
1	キジ目	キジ科	エゾライチョウ	<i>Tetrastes bonasia</i>				DD	Nt	留鳥	森林
2	カモ目	カモ科	コガモ	<i>Anas crecca</i>						冬(留)鳥	水辺
3	ハト目	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>						夏鳥	森林・人里
4			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>						夏鳥	森林
5	ツル目	ツル科	タンチョウ	<i>Grus japonensis</i>		特天	国内	VU	Vu	留鳥	水辺・草原
6	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	<i>Hierococyx hyperythrus</i>						夏鳥	森林
7			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>						夏鳥	森林
8	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>						夏鳥	森林
9			アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>						夏鳥	海域
10	チドリ目	シギ科	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>					N	夏鳥	森林
11			オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>				NT	Nt	夏鳥	草原
12	タカ目	ミサゴ科	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus</i>				NT	Nt	夏鳥	水辺
13		タカ科	トビ	<i>Milvus migrans</i>						留鳥	水辺・人里
14			オジロワシ	<i>Haliaeetus albicilla</i>		国天	国内	VU	Vu	留鳥	水辺
15			ツミ	<i>Accipiter gularis</i>					Dd	夏(留)鳥	森林
16			ハイタカ	<i>Accipiter nisus</i>				NT	Nt	夏(留)鳥	森林
17			オオタカ	<i>Accipiter gentilis</i>				NT	Nt	留(夏)鳥	森林
18			ノスリ	<i>Buteo buteo</i>						留鳥	森林
19			クマタカ	<i>Nisaetus nipalensis</i>			国内	EN	En	留鳥	森林
20	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>						留鳥	森林
21			オオアカゲラ	<i>Dendrocopos leucotos</i>					Dd	留鳥	森林

※   :重要種 ※   :確認種

令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線  
モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

表 鳥類調査による確認種(2/3)

No.	目名	科名	種名	学名	新規 確認種	重要種				渡りの型	生息環境
						文化財	種の 保存法	環境省 RL	北海道 RL		
22	キツツキ目	キツツキ科	アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>						留鳥	森林
23			クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>		国天		VU	Vu	留鳥	森林
24			ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>						留鳥	森林
25	ハヤブサ目	ハヤブサ科	チゴハヤブサ	<i>Falco subbuteo</i>	◎					夏鳥	草原
26	スズメ目	モズ科	モズ	<i>Lanius bucephalus</i>						夏鳥	森林
27		カケス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>						留鳥	森林
28			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>						留鳥	人里
29			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>						留鳥	森林・人里
30		キクイタダキ科	キクイタダキ	<i>Regulus regulus</i>						留鳥	森林
31		シジュウカラ科	ハシブトガラ	<i>Poecile palustris</i>						留鳥	森林
32			コガラ	<i>Poecile montanus</i>						留鳥	森林
33			ヤマガラ	<i>Poecile varius</i>						留鳥	森林
34			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>						留鳥	森林
35			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>						留鳥	森林・人里
36		ツバメ科	イワツバメ	<i>Delichon dasypus</i>						夏鳥	森林・人里
37		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>						留鳥	森林・人里
38		ウグイス科	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>						夏鳥	森林
39		エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>						留鳥	森林
40		ムシクイ科	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>						夏鳥	森林
41			センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>						夏鳥	森林
42		センニュウ科	エゾセンニュウ	<i>Locustella fasciolata</i>	◎					夏鳥	森林
43		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>						留鳥	森林
44		キバシリ科	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>						留鳥	森林
45		ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>						留鳥	森林
46		カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>						留鳥	水辺
47		ヒタキ科	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>						夏鳥	森林
48			クロツグミ	<i>Turdus cardis</i>						夏鳥	森林
49			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>						夏鳥	森林
50			コマドリ	<i>Luscinia akahige</i>						夏鳥	森林

※   : 重要種

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 表 鳥類調査による確認種(3/3)

No.	目名	科名	種名	学名	新規 確認種	重要種				渡りの型	生息環境
						文化財	種の 保存法	環境省 RL	北海道 RL		
51	スズメ目	ヒタキ科	コルリ	<i>Luscinia cyane</i>						夏鳥	森林
52			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>						夏鳥	森林
53			ノビタキ	<i>Saxicola torquatus</i>						夏鳥	草原
54			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>						夏鳥	森林
55			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>						夏鳥	森林
56			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>						夏鳥	森林
57		セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>						夏鳥	水辺
58			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>						夏鳥	森林・草原
59		アトリ科	カワラヒワ	<i>Chloris sinica</i>						夏鳥	草原・森林・人里
60			マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>						留鳥	森林
61			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>						夏鳥	森林・草原
62			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>						留鳥	森林
63			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>						夏(留)鳥	森林
64			イカル	<i>Eophona personata</i>						夏鳥	森林
65		ホオジロ科	ホオジロ	<i>Emberiza cioides</i>						夏鳥	草原
66			アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>						夏鳥	草原・森林・人里
合計	11目	29科	66種		2種	3種	3種	9種	12種		



# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 表 重要種確認状況(4~5月)

科名	種名	重要種選定基準※				繁殖を示唆する 行動の確認	調査時期/調査地点													
		文化財	種の 保存法	環境省 RL	北海道 RL		4月					5月								
							St.1	St.2	St.3	SP 1860	SP 2410	補足 調査	St.1	St.2	St.3	SP 1860	SP 2410	補足 調査		
キジ科	エゾライチョウ			DD	Nt	さえずり		●	●					●						
ツル科	タンチョウ	特天	国内	VU	Vu	抱卵・幼鳥					●	●								●
シギ科	ヤマシギ				N	-														
	オオジシギ			NT	Nt	ディスプレイフライト			●						●					
ミサゴ科	ミサゴ			NT	Nt	-														
タカ科	オジロワシ	国天	国内	VU	Vu	-		●		●	●			●	●	●				
	ツミ				Dd	-								●		●				
	ハイタカ			NT	Nt	-								●						
	オオタカ			NT	Nt	-														
	クマタカ		国内	EN	En	-	●	●	●											
キツキ科	オオアカゲラ				Dd	-			●					●	●					●
	クマガラ	国天		VU	Vu	-	●	●	●					●	●	●	●			
6科	12種	3種	3種	9種	12種		2種	5種	4種	1種	2種	1種	2種	5種	4種	3種	2種	1種		

### ※重要種の選定基準

- 文化財:「文化財保護法」およびこれに基づく条例で指定された天然記念物  
特天:国指定の特別天然記念物、国天:国指定の天然記念物
- 種の保存法:「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」  
国内:国内希少野生動植物

- 環境省RL:「環境省レッドリスト2020」(令和2年3月27日、環境省)  
EN:絶滅危惧IB類、VU:絶滅危惧II類、NT:準絶滅危惧、DD:情報不足
- 北海道RL:「北海道レッドリスト【鳥類編】2017」(平成29年4月7日、北海道)  
En:絶滅危惧IB類、Vu:絶滅危惧II類、Nt:準絶滅危惧Dd:情報不足、N:留意種





このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

このページは、希少動物の生息及び生息環境が脅かされる可能性があるため、非公開としております。

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## スポットセンサス結果

- スポットセンサスで確認された鳥類は7目22科45種であった。
- 重要種はエゾライチョウ、ヤマシギ、オオジシギ、クマゲラの4種を確認した。

表 スポットセンサス確認種(1/2)

No.	目名	科名	種名	学名	個体数	重要種				渡りの型	生息環境
						文化財	種の保存法	環境省 RL	北海道 RL		
1	キジ目	キジ科	エゾライチョウ	<i>Tetrastes bonasia</i>	3			DD	Nt	留鳥	森林
2	ハト目	ハト科	キジバト	<i>Streptopelia orientalis</i>	28					夏鳥	森林・人里
3			アオバト	<i>Treron sieboldii</i>	23					夏鳥	森林
4	カッコウ目	カッコウ科	ジュウイチ	<i>Hierococcyx hyperythrus</i>	6					夏鳥	森林
5			ツツドリ	<i>Cuculus optatus</i>	18					夏鳥	森林
6	アマツバメ目	アマツバメ科	ハリオアマツバメ	<i>Hirundapus caudacutus</i>	2					夏鳥	森林
7			アマツバメ	<i>Apus pacificus</i>	4					夏鳥	海域
8	チドリ目	シギ科	ヤマシギ	<i>Scolopax rusticola</i>	2				N	夏鳥	森林
9			オオジシギ	<i>Gallinago hardwickii</i>	1			NT	Nt	夏鳥	草原
10	キツツキ目	キツツキ科	コゲラ	<i>Dendrocopos kizuki</i>	6					留鳥	森林
11			アカゲラ	<i>Dendrocopos major</i>	14					留鳥	森林
12			クマゲラ	<i>Dryocopus martius</i>	5	国天		VU	Vu	留鳥	森林
13			ヤマゲラ	<i>Picus canus</i>	2					留鳥	森林
14	スズメ目	カラス科	カケス	<i>Garrulus glandarius</i>	9					留鳥	森林
15			ハシボソガラス	<i>Corvus corone</i>	9					留鳥	人里
16			ハシブトガラス	<i>Corvus macrorhynchos</i>	8					留鳥	森林・人里
17		ククイタダキ科	ククイタダキ	<i>Regulus regulus</i>	7					留鳥	森林
18		シジュウカラ科	ハシブトガラ	<i>Poecile palustris</i>	14					留鳥	森林
19			コガラ	<i>Poecile montanus</i>	2					留鳥	森林
20			ヒガラ	<i>Periparus ater</i>	24					留鳥	森林
21			シジュウカラ	<i>Parus minor</i>	14					留鳥	森林・人里
22		ヒヨドリ科	ヒヨドリ	<i>Hypsipetes amaurotis</i>	1					留鳥	森林・人里
23		ウグイス科	ヤブサメ	<i>Urosphena squameiceps</i>	1					夏鳥	森林
24		エナガ科	エナガ	<i>Aegithalos caudatus</i>	6					留鳥	森林
25		ムシクイ科	エゾムシクイ	<i>Phylloscopus borealoides</i>	27					夏鳥	森林

※   : 重要種

# 令和5年度 モアショロ原野螺湾足寄停車場線 モアショロ原野地区の環境影響に関する 第1回ワークショップ

## 表 スポットセンサス確認種(2/2)

No.	目名	科名	種名	学名	個体数	新規 確認種	重要種				渡りの型	生息環境
							文化財	種の 保存法	環境省 RL	北海道 RL		
26	スズメ目	ムシクイ科	センダイムシクイ	<i>Phylloscopus coronatus</i>	15						夏鳥	森林
27		センニュウ科	エゾセンニュウ	<i>Locustella fasciolata</i>	1	◎					夏鳥	森林
28		ゴジュウカラ科	ゴジュウカラ	<i>Sitta europaea</i>	5						留鳥	森林
29		キバシリ科	キバシリ	<i>Certhia familiaris</i>	10						留鳥	森林
30		ミソサザイ科	ミソサザイ	<i>Troglodytes troglodytes</i>	12						留鳥	森林
31		カワガラス科	カワガラス	<i>Cinclus pallasii</i>	2						留鳥	水辺
32		ヒタキ科	トラツグミ	<i>Zoothera dauma</i>	14						夏鳥	森林
33			アカハラ	<i>Turdus chrysolaus</i>	29						夏鳥	森林
34			コルリ	<i>Luscinia cyane</i>	10						夏鳥	森林
35			ルリビタキ	<i>Tarsiger cyanurus</i>	28						夏鳥	森林
36			コサメビタキ	<i>Muscicapa dauurica</i>	9						夏鳥	森林
37			キビタキ	<i>Ficedula narcissina</i>	6						夏鳥	森林
38			オオルリ	<i>Cyanoptila cyanomelana</i>	7						夏鳥	森林
39		セキレイ科	キセキレイ	<i>Motacilla cinerea</i>	3						夏鳥	水辺
40			ビンズイ	<i>Anthus hodgsoni</i>	2						夏鳥	森林・草原
41		アトリ科	マヒワ	<i>Carduelis spinus</i>	2						留鳥	森林
42			ベニマシコ	<i>Uragus sibiricus</i>	2						夏鳥	森林・草原
43			ウソ	<i>Pyrrhula pyrrhula</i>	15						留鳥	森林
44			シメ	<i>Coccothraustes coccothraustes</i>	4						夏(留)鳥	森林
45		ホオジロ科	アオジ	<i>Emberiza spodocephala</i>	7						夏鳥	草原・森林・人里
合計	7目	22科	45種		419個体	1種	1種	0種	3種	4種		



調査実施状況

## 今後の予定

- 重要種鳥類生息状況確認調査：有識者及び環境省と調整の上、実施